

- 国内金利** : 低位で推移
- 株式市場** : もみ合いの推移
- J-REIT** : 小幅に下落
- 外国為替** : もみ合いの推移

日米主要経済指標、ご留意事項

マネーマーケットあらかると

日本株 33 年ぶりの高値更新

日経平均株価は5月22日に終値で3万1000円台をつけ、1990年7月以来、約33年ぶりの高値を更新しました。足元で目立つのは海外投資家の動きで、5月の第3週まで8週連続で買い越していることから、日本に資金が集まっていることが分かります。評価されているのは企業業績と株価の割安感です。東証プライム市場の24年3月期の純利益予想は前期比で増加し、3期連続で最高益を更新する見通しとなっています。加えて、企業規模から見た株価水準は世界的に見ても割安であり、今後の成長余力が評価されたものと思われます。米国の著名投資家ウォーレン・バフェット氏が4月に来日した際、日本株への追加投資を示唆したことも海外投資家の動きに影響を与えたかもしれません。

バブル崩壊以降、その後始末に追われた日本は、世界から大きく後れを取ってきました。足元の日経平均株価は1989年末につけた高値の8割程度ですが、同じ期間に米国株(ダウ平均株価)は12倍と大きく伸びています。持続的な株高を実現し、世界との差を縮めることができるのか、今後の動向を注目したいと思います。(菊地)

マネーマーケットマンスリーは経済、金利、為替、株価についての情報提供を目的として作成したもので、取引等の勧誘を目的としたものではありません。

また、金融商品取引契約の締結の勧誘に使用するものではありません。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断で行うようお願い申し上げます。

※本資料の使用に際し、最終ページを必ずご覧ください。

(2023.5.29 作成)

資金証券部 TEL: 042-526-7740

国内金利

■要約&ポイント

- 海外金利の上昇により、国内金利は小幅に上昇
- 植田総裁は大規模な金融緩和を継続する方針を主張
- 海外金利の上昇が予想されるものの、日銀の金融緩和継続により低位での推移を予想

■5月の動き(1日～29日) ～小幅に上昇～

【変動幅】

0.360%

～

0.425%

5月の10年国債利回りは前月から小幅に上昇した。米国における利上げ長期化観測などにより、海外金利が上昇したことで国内長期金利も上昇した。

(29日時点の10年国債利回りは0.435%、先月末比0.045%上昇)

■6月見通し ～低位で推移～

【予想レンジ】

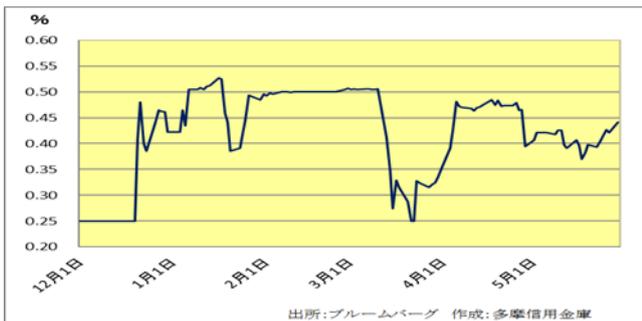
0.350%

～

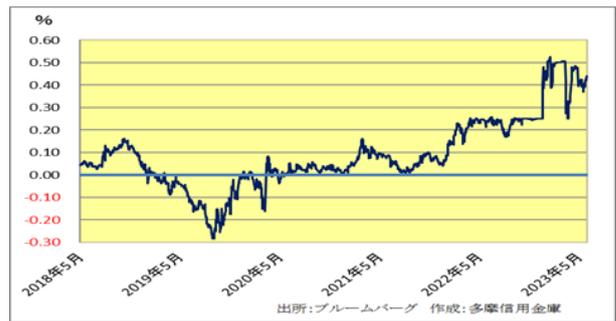
0.500%

5月25日、植田総裁は報道各社によるインタビューにおいて、改めて大規模な金融緩和を継続する方針を示した。また拙速な金融政策の修正については、「雇用等に大きなマイナスの影響が及ぶ」とも発言した。そのため、植田総裁にとって2回目となる6月の決定会合での修正は見送られるものと予想され、国内金利は低位に推移すると思われる。一方、米国では6月の利上げを予想する市場参加者の割合が増加しており、海外金利は上昇しやすいと考えられるものの、国内金利への影響は限定的だろう。

【国内長期金利チャート(6か月)】



【国内長期金利チャート(5年)】



■今月の注目経済指標 ～国内総生産 (GDP)～

2023年1-3月期における実質GDP成長率の1次速報値は、前期比+0.4%(年率換算+1.6%)と、3四半期ぶりのプラス成長となった。内訳をみると個人消費については、外食や宿泊などサービス関連の伸びにより、前期比0.6%と4四半期連続のプラスとなった。また、設備投資は+0.9%と2四半期ぶりのプラスであった。足元の4-6月期については、新型コロナの感染法上の位置づけが5類に引き下げされたことで、個人消費の回復が継続するものと思われることから、今後の消費動向に与える影響も注視したい。

(折原)

株式市場

■要約&ポイント

- 5月の日経平均株価は、大幅上昇
- 海外投資家を中心とした買いに支えられ、約33年ぶりに31,000円台まで上昇
- 6月の日経平均株価は、もみ合いの推移を想定
- 国内外の景気動向や、日米の金融政策に注目

■5月の動き(1日～29日) ～大幅上昇～

【変動幅】

28,931円

～

31,560円

5月の日経平均株価は大幅上昇した。3月期決算企業が発表した今期の業績予想にて、概ね堅調な見通しが確認されたことや、日本株の割安感に着目した海外投資家の買いが入ったこと等から、約33年ぶりに31,000円台まで上昇した。その後は、急速な株価上昇から過熱感が意識され、利益確定売りに押される場面も見られたが、上昇幅を維持しながら推移した。
(29日時点での日経平均株価は31,233円、先月末比2,377円上昇)

■6月見通し ～もみ合いの推移～

【予想レンジ】

29,500円

～

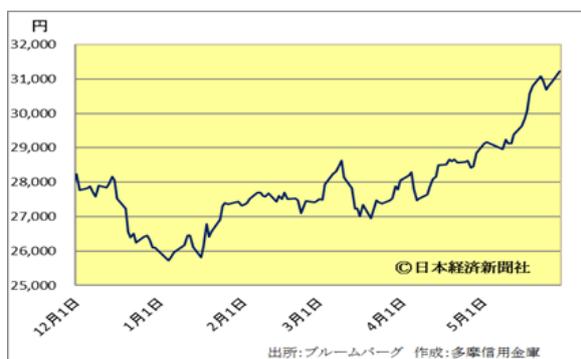
32,500円

6月の日経平均株価はもみ合いの推移を想定する。足元の株高は、日本企業の業績期待や割安感による海外投資家の日本株選好の動きが強く、この動きは継続すると考えられる。また、日銀は大規模な金融緩和を継続する姿勢を示しており、ドル円相場も円安ドル高に推移していること等は、株価の上昇要因となるだろう。

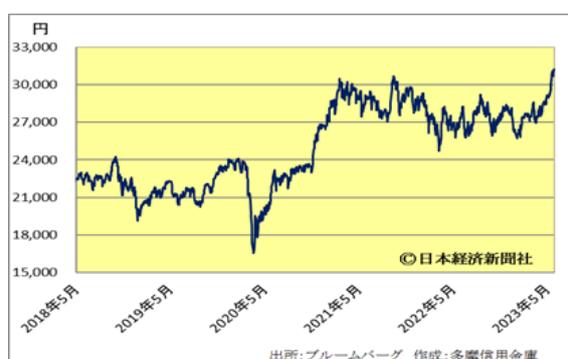
一方、今年度に入り急速な株価上昇となっているため、過熱感が意識され、利益確定売りが出やすい水準であると考えられる。また、米国の経済指標が堅調な推移となっており、FRB(米連邦準備制度理事会)による金融引き締め長期化懸念等が囂っていることは、警戒する必要があるだろう。

以上の要因から、6月の日経平均株価は、上昇局面では相応の売りが出ることで想定されるため、もみ合いの推移を想定する。

【日経平均株価チャート(6か月)】



【日経平均株価チャート(5年)】



(鈴木(康))

J-REIT

■要約&ポイント

- 5月の東証REIT指数は、小幅に下落
- 概ね1,800ポイント後半で推移し、月を通して方向感なく推移
- 6月の東証REIT指数は小幅に下落する相場を想定
- 不動産市況に対する警戒感や利益確定売りが重し

■5月の動き(1日～29日)

～小幅に下落～

【変動幅】

1,836ポイント

～

1,892ポイント

5月の東証REIT指数は小幅に下落した。月を通して方向感なく、概ね1,800ポイント後半でのみみ合いの推移となった。ただ、月末にかけては国内金利が上昇基調で推移したこと等から、東証REIT指数は下落基調で推移した。

(29日時点での東証REIT指数は1,865ポイント、先月末比8ポイント下落)

■6月見通し

～小幅に下落～

【予想レンジ】

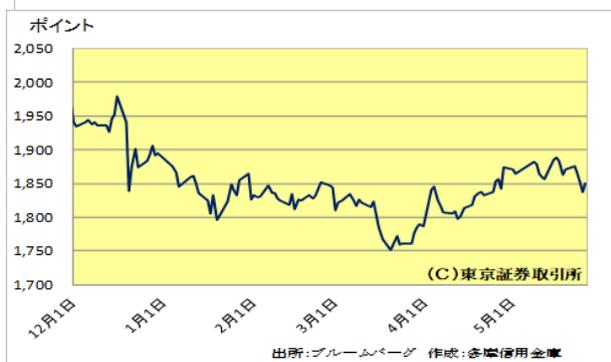
1,750ポイント

～

1,900ポイント

6月の東証REIT指数は小幅に下落する相場を想定する。東証REIT指数は3月中旬から5月中旬にかけて上昇基調での推移が継続していたものの、中旬以降は上昇基調の流れが一服しており、売り優勢で推移する場面が見られている。そのため、オフィス空室率の高止まりや平均賃料の低下が続く中では、一段買い進む動きは限定的だと思われ、売り優勢の相場になりやすいであろう。ただ、日本の10年国債利回りが0.4%前後を推移しているのに対して、東証REIT指数は約4%と高い配当利回りが見込まれる。そのため、売り優勢で推移する場面でも東証REITに対する投資ニーズは継続し、小幅な下落に留まるであろう。

【東証REIT指数チャート(6か月)】



【東証REIT指数チャート(5年)】



(森久保)

外国為替

■要約&ポイント

- 5月のドル円相場は円安ドル高の推移
- 米国の雇用関連指標、物価関連指標は依然として堅調な推移
- FRB(米連邦準備制度理事会)高官によるタカ派発言から6月会合での利上げ懸念が浮上
- 引き続きFRB(米連邦準備制度理事会)の動向に注目

■5月の動き(1日～29日) ～円安ドル高～

【変動幅】

133円50銭

～

140円92銭

5月のドル円相場は、円安ドル高の推移となった。米国の一部の経済指標が市場予想を上回ったことで米国の景気後退懸念が和らいだ。一部のFRB高官から6月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で更なる利上げを実施すべきとの発言も出たことで、市場の利上げ打ち止め観測が後退し、米国金利が大幅に上昇、ドル円相場も円安ドル高に推移した。

(29日時点でのドル円相場は140円45銭、先月末比4円15銭円安ドル高)

■6月見通し ～もみ合いの推移～

【予想レンジ】

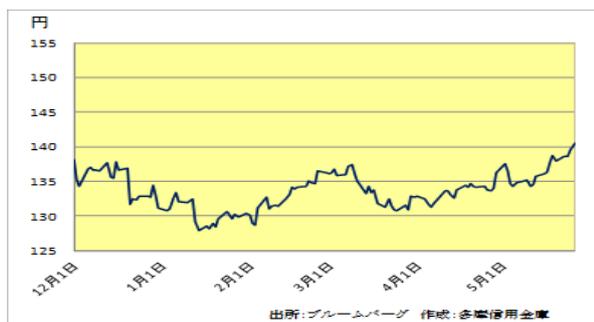
136円00銭

～

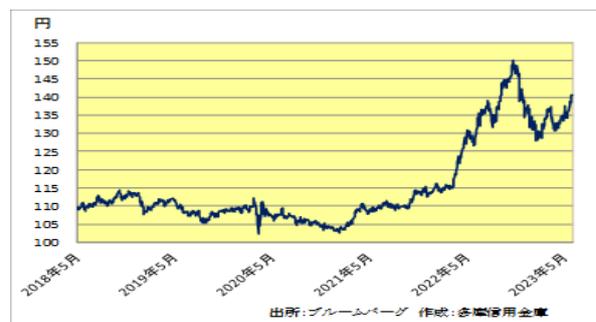
144円00銭

6月のドル円相場は、もみ合いの推移を予想する。
今後のFRBの金融政策の方向性については追加利上げの必要性に関してFRB内部で意見が分かれていることが窺える。米国で起こった一連の銀行破綻により信用収縮が進むとの見方から追加利上げに慎重な姿勢を示すFRBメンバーがいる一方でインフレ率の低下が進まないリスクから追加の利上げを主張するメンバーもあり、今後の利上げ動向は不透明な状況である。
足元の米国経済指標は堅調な推移となっている一方で、大幅な利上げや銀行の信用収縮により、経済減速が顕在化することへの警戒感もぬぐえない状況である。
以上の要因から6月のドル円相場は方向感が出にくくもみ合いの推移を予想する。

【ドル円チャート(6か月)】



【ドル円チャート(5年)】



(池上)

日米主要経済指標

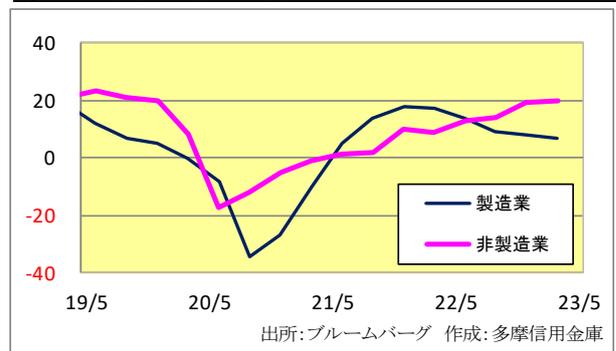
2023年5月29日 現在

(1) 国内経済指標

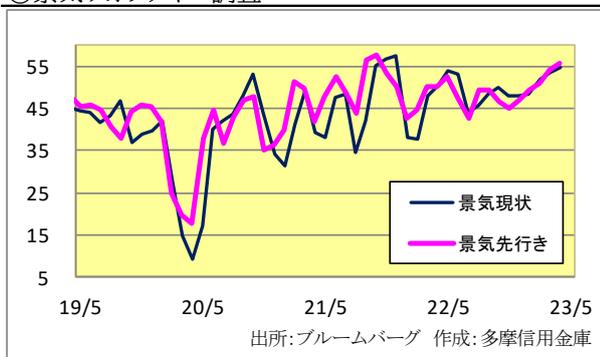
① 実質GDP (前期比・年率)



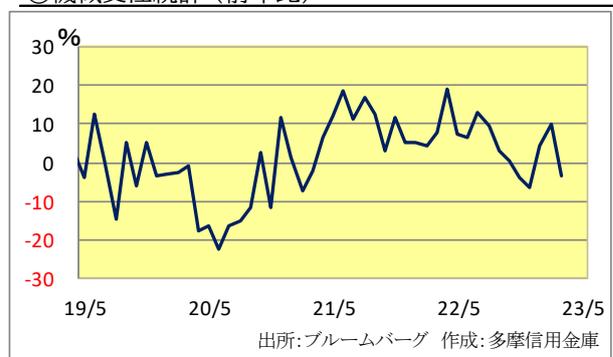
② 日銀短観・大企業業況判断DI



③ 景気ウォッチャー調査

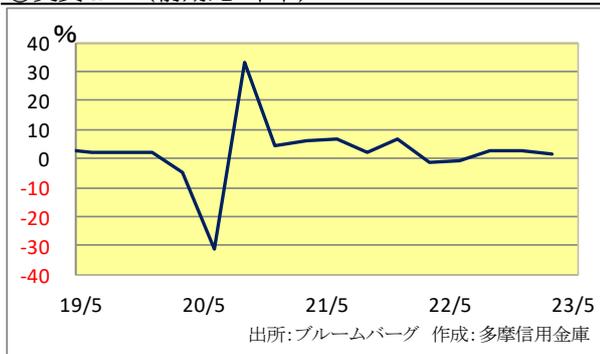


④ 機械受注統計 (前年比)

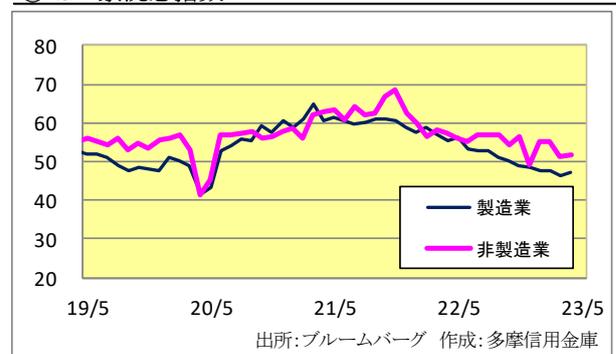


(2) 米国経済指標

① 実質GDP (前期比・年率)



② ISM景況感指数



③ 非農業部門雇用者数(前月比増減)



④ 新築住宅販売(前年比)



※コロナショックにより過去の結果と大幅な乖離が見られるため下記表示を割愛
2020年4月実績値:▲20,787千人

ご留意事項

- ・本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- ・本資料は、信頼できると考えるデータに基づき多摩信用金庫が作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ・本資料は記載されたいかなる内容も、将来の市場変動を保証するものではありません。本資料のご利用に関してはご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも多摩信用金庫の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。
- ・本資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的著作権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。